

新潟県新潟市方言



【新潟県の方言区画】「新潟県魚沼市方言」(吉田雅子) (『全国方言文法辞典資料集 (5) 活用体系 (4)』参照)

【新潟市方言について】新潟市は高速道路や新幹線により首都圏とのアクセスが良く、国際空港や国際港湾を擁した、都市化の進んだ地域である。伝統方言のほか、共通語も広く話されている。

「新潟県魚沼市方言」(吉田雅子) (『全国方言文法辞典資料集 (5) 活用体系 (4)』) に記載の通り、方言区画は、中越北部方言 (越後平野部方言) にあたる。

加藤正信 (1961) では、中越北部方言 (越後平野部方言) について、文法面は北越方言の下位分類である岩船・北蒲原方言と、関西的で共通する点が多いが、音韻面では非常に異なること、中越南部方言とは音韻面では共通点が多いが、文法面では中越北部方言から中越南部方言に入ると関西的なものが影をひそめ、関東方言的になっていることを指摘している。県内の方言は文法面からみれば音韻面からみれば方言区画が異なり、複雑である。

音韻面では渡辺 (1979) は新潟市の古町及び新通での調査結果として、「母音の /i/ は [e] で発音される。ただし [e] は共通語の [e] よりはやや狭いもので、[i] より広い。従って被調査者は、/i/

という単独の母音はないと意識している」と述べている。(例えば「イトー」と「エトー」が口頭だと混同するなど。)しかし、本調査においては、こうした中間的な母音や開合音の区別、特徴的な子音などは表れなかった。

また、渡辺 (2001) では、「臭い」が「クッセ」となるような促音化現象が新潟市及び西蒲原地域に分布しているとしている。中越北部方言では語頭以外のダ行破裂音がラ行音に発音される傾向がある。

文法面では「買う」をコー、「かまう」をカモーとするワ行ウ音便形があること、形容詞は「長い」はナーゲ、「寒い」はサーメのように1拍目の後に長音が挿入される特徴があることが指摘されている (竹内 1954)。また、「早く」がハヨーとなるような形容詞のウ音便が盛んである。こうした特徴は現在高年層にはみられるが、壮年層・若年層にはあまりみられない。

【表記について】表記はカタカナ表記とする。

【調査概要】本稿の記述は、新潟県新潟市で生育した筆者 (1992 (平成 4) 年生まれ) の内省を中心とし、同じく新潟市で生育し現在も居住する高年層話者 (1947 (昭和 22) 年生まれ)、壮年層話者 (1966 (昭和 41) 年生まれ) への聞き取り調査のデータを加えて記載した。引用元を記載していない用例は、筆者自身の内省によるものである。高年層話者、壮年層話者からの聞き取り結果は [高年層]、[壮年層] と記した。

新潟県新潟市方言の活用表

《動詞》

		多段型 書く	一段型 見る	来る	する
終止類	断定非過去	カク	ミル	クル	スル
	断定過去	カイタ	ミタ	キタ	シタ
	命令	カケ カコ (一)	ミレ ミロ (一)	コイ	シレ セ (一) ショ (一)
	禁止	カクナ	ミンナ ミルナ	クンナ クルナ	スンナ スルナ
	意志	カコ (一)	ミロ (一) ミヨー	コヨ (一)	ショ (一) シヨー
	推量	カクロ (一) カクダロー	ミッコ (一) ミルロ (一) ミルダロー	クッコ (一) クンロ (一) クルロ (一) クルダロー	スッコ (一) スンロ (一) スルロ (一) スルダロー
接続類	連体非過去	カク	ミツ ミル	クツ クル	スル
	連体過去	カイタ	ミタ	キタ	シタ
	中止	カITE	ミテ	キテ	シテ
	仮定	カケバ	ミレバ	コレバ コエバ クレバ	シレバ セーバ スレバ
派生類	否定	カカネ (一) カカナイ	ミネ (一) ミナイ	コネ (一) コナイ	シネ (一) シナイ
	丁寧	△カキマス	△ミマス	△キマス	△シマス
	使役	カカセル	ミサセル	コサセル	サセル
	受身	カカレル	ミラレル	コラレル	サレル
	可能	カケル カカレル	ミレル ミラレル	コレル コラレル	《デキル》
	尊敬	△カカレル	△ミラレル	△コラレル	△サレル
	継続	カITEル カITEイル	ミTEル ミTEイル	キTEル キTEイル	シTEル シTEイル
	希望	カキテ (一) カキタイ	ミテ (一) ミタイ	キテ (一) キタイ	シテ (一) シタイ
	のだ	カクンダ	ミルンダ	クルンダ	スルンダ

多段型動詞の基幹音便形

語幹末子音	語例	活用形例(過去形)	作り方
k	書く kak·u	カイ-タ	kをiにする。「行く」ik·uはkをQ(促音)にし「イツ-タ」。 gをiにする。-タが-ダになる。 音便形をとらず、基幹イ段形を用いる。 t/cをQ(促音)にする。 nをN(撥音)にする。-タが-ダになる。 bをN(撥音)にする。-タが-ダになる。 mをN(撥音)にする。-タが-ダになる。 rをQ(促音)にする。 wはø(子音なし)に。wの前の母音がaの場合はoに変える。基幹を長音化する。 ※現在若年層はwをQ(促音)にする形に移行している。
g	嗅ぐ kag·u	カイ-ダ	
s	出す das·u	ダシ-タ	
t/c	立つ tac·u	タツ-タ	
n	死ぬ sin·u	シン-ダ	
b	飛ぶ tob·u	トン-ダ	
m	飲む nom·u	ノン-ダ	
r	切る kir·u	キツ-タ	
w/ø	買う ka(w)·u	コー-タ	
	誘う saso(w)·u	サソー-タ	
	言う ju(w)·u	ユー-タ	

《形容詞・形容名詞述語・名詞述語》

		赤い	寒い	静か(だ)	学生(だ)
終止類	断定非過去	アーケ アカイ	サーメ サムイ	シズカダ	ガクセーダ
	断定過去	アーコカッタ アーケカッタ アカカッタ	サーメカッタ サムカッタ	シズカダッタ シズカラッタ	ガクセーダッタ ガクセーラッタ
	推量	アーケロ(ー) アカイダロー	サーメロ(ー) サムイダロー	シズカダロー シズカラロー	ガクセーダロー ガクセーラロー
接続類	連体非過去	アーケ アカイ △アケー	サーメ サムイ	シズカナ	《ガクセーノ》
	連体過去	アーケカッタ アーコカッタ アカカッタ	サーメカッタ サムカッタ	シズカダッタ シズカラッタ	ガクセーダッタ ガクセーラッタ
	中止	アーケテ アーコテ アカクテ	サーメテ サムクテ	シズカデ	ガクセーデ
	仮定	アーケバ アーコバ アカケレバ	サーメバ サムケレバ	シズカナラ	ガクセーナラ
派生類	否定	アーケネ(ー) アーコネ(ー) アカクネ(ー) アカクナイ	サーメネ(ー) サーモネ(ー) サムクネ(ー) サムクナイ	シズカジャナイ シズカジャー	ガクセージャナイ ガクセージャー
	なる	アーケナル アーコナル アカクナル	サーメナル サーモナル サムクナル	シズカニナル シズカニナル	ガクセーニナル
	丁寧	△アカイデス	△サムイデス	△シズカデス	△ガクセーデス
	のだ	アーケンダ アカインダ △アカイノダ	サーメンダ サムインダ △サムイノダ	シズカナンダ △シズカナノダ	ガクセーナンダ △ガクセーナノダ

1. 動詞の活用の特徴

(1) 活用型と語類の対応

規則的な活用型として基幹多段型(以下「多段型」と基幹一段型(以下「一段型」)がある。おお

よそ、多段型にはa類(「書く」・「居る」・「死ぬ」類)動詞、一段型にはb類(「見る」・「起きる」・「開ける」類)動詞が所属する。

多段型の基幹にはア・イ・ウ・エ・オの5段、お

よび、音便形がある。「カク」(書く)の場合、カカネー (kak·a-neR)、カキテー (kak·i-teR)、カク (kak-u)、カコー (kak·o-R)、カイタ (kai-ta) など。また、語幹末子音には k (カ行)、g (ガ行)、s (サ行)、t (タ行)、n (ナ行)、b (バ行)、m (マ行)、r (ラ行)、w (ワ行) がある。

一段型には、ミル (mi-ru)、オキル (oki-ru) など基幹がイ段の動詞と、ネル (ne-ru)、アケル (ake-ru) など基幹がエ段の動詞がある。一段型の動詞は「ミル」(見る)を例にすると、断定非過去形・連体非過去形ミル (mi-ru)、命令形ミレ (mi-re)、意志形ミロー (mi-roR)、推量形ミル=ロー (mi-ru=roR)、仮定形ミレバ (mi-reba)、受身形ミラレル (mi-rareru)、可能形ミレル (mi-neru) があり、r 語幹化が進んでいる。

不規則な活用をする動詞として、「クル」(来る)、「スル」(為る)がある。ともに一段型に近い活用をするが、「クル」はキタ (k·i-ta)、クル (k·u-ru)、コイ (k·o-i) などのように、基幹が「キ」「ク」「コ」の3段にわたる。「スル」はサレル (s·a-ru)、シタ (s·i-ta)、スル (s·u-ru)、セーバ (s·ee-ba)、セー (s·ee) などのように基幹が「サ」「シ」「ス」「セ(ー)」の4段にわたる。「スル」は命令形、意志形ショー (s·joR) のように融合によりオ段拗音も現れる。

(2) 各活用形の特徴

〈断定非過去形〉

連体非過去形と同形で、多段型動詞は「カク」など基幹ウ段形となる。一段型動詞は「ミル」のように「基幹+ル」、「来る」「する」は基幹ウ段形に「ル」を付けた「クル」「スル」となる。

語幹末子音がwでその前の母音がaである動詞の「コー(買う)」「カモー(構う)」などの形(本稿冒頭【新潟県の方言について】参照)は確認できなかった。

- ・リレキシヨオ カク。(履歴書を書く。)
- ・マイニチ テレビオ ミル。(毎日テレビを見る。)
- ・ソロット アニガ クル。(そろそろ兄が来る。)
- ・イマカラ シゴトオ スル。(今から仕事をする。)

- ・キョー ヨル アメ フルレ。(今日は夜に雨が降るよ。)[壮年層]

〈断定過去形〉

多段型動詞は基幹音便形に、一般型動詞は基幹に、「来る」「する」はイ段形「キ」「シ」に、「タ」を後接する。

また、高年層の場合、語幹末子音がwの動詞で共通語と異なることがある。例えば「カウ(買う)」「アウ(会う)」「カマウ(構う)」は、「コータ」「オータ」「カモータ」のようなウ音便形をとる。

- ・トモダチニ テガミオ カイタ。(友達に手紙を書いた。)
- ・キノワ エーガオ ミタ。(昨日は映画を見た。)
- ・キノー ハナコガ ココニ キタ。(昨日、花子がここに来た。)
- ・キノー シゴト シタ。(昨日、仕事をした。)
- ・ヤスカッタ {ツケ/スケ} コータ。(安かったので、買った。)

〈命令形〉

多段型動詞では「カケ」などの基幹エ段形となる。一段型動詞では「ミロ」のように「基幹+ロ」となる場合と「ミレ」のように「基幹+レ」となる場合がある。「来る」は「オ段形+イ」の「コイ」、「する」は一段型と同じ「イ段形+レ」の「シレ」か、基幹エ段形またはその長音形の「セ(ー)」となる。

竹内(1954)では、「命令形は普通「書ケ」のように単独でも使用するが、助詞「ヤ」を伴って「ハヨージーカケヤ」などということも少なくない」と述べられている。ただし、今回の高年層、壮年層への調査では「カケヤ」のような助詞「ヤ」を伴う形は乱暴な印象があり、滅多に使わないと回答されている。

また、多段型動詞ではオ段形・オ段長音形の「カコ(ー)」、一段型動詞では「基幹+ロ(ー)」の「ミロ(ー)」、「する」ではオ段拗音、拗長音形の「シヨ(ー)」という形も使用する。これらは意志形と同形である。竹内(1954)には、「書コー」は「書ケ」よりも意が強くなり、当然すべきだという調子の意味になる」との記述がある。今回の調査でも「カコ(ー)」は「カケ」よりも意が強いとの

ことだった。同様に「シレ」・「セー」・「ショー」の場合には「シレ」より「セー」・「ショー」の方が意が強い。しかし「ミレ」と「ミロ（一）」では「ミレ」の方がきつい言い方であるとのことであった。

- ・ナマエ ハヨ {カコ（一）／カケ}。(名前を早く書け。)
- ・コッチ {ミレ／ミロ（一）}。(こっちを見る。)[高年層]
- ・ハヨ オキレ（一）。(早く起きろ。)[壮年層]
- ・イマカラ ココニ コイ。(今からここに来い。)
- ・ポーット シテネデ ハヨ {セ（一）／シレ／ショー}。(ぼんやりしていないで早くしろ。)
- ・エタズラモンナンカ テンジョカラ オチレ。(いたずら者なんか天井から落ちろ。)[竹内 1954]

〈禁止形〉

禁止形は断定非過去形に「ナ」が付く形式である。

- ・ココニ ジオ カクナ。(ここに字を書くな。)
- ・ゼツタイニ シヌナ。(絶対に死ぬな。)

また、語末音が「ル」である場合、「ル」を撥音化した形も併用される。

- ・クダラネ バングミバッカ {ミンナ／ミルナ}。(くだらない番組ばかり見るな。)[壮年層]
- ・ココニワ {クンナ／クルナ}。(ここには来るな。)
- ・ケンカ {スンナ／スルナ}。(喧嘩するな。)

〈意志形〉

多段型動詞は「カコ（一）」などオ段形とオ段長音形をどちらも使用する。一段型動詞は「ミヨー」のように基幹に「ヨー」を付す形と、「ミロ（一）」のように基幹に「ロ（一）」を付す形がある。「来る」はオ段形に「ヨ（一）」を付す「コヨ（一）」、「する」はイ段形に「ヨ（一）」を付す「シヨ（一）」と、オ段拗音・拗長音形「ショ（一）」が使われる。

- ・タローニ テガミオ カコ（一）。(太郎に手紙を書こう。)
- ・イマカラ テレビオ {ミロ（一）／ミヨー}カナ。(今からテレビを見ようかな。)

- ・シバラク ココニ イヨ（一）。(しばらくここにしよう。)
- ・タノシカッタカラ マタ コヨ（一）。(楽しかったからまた来よう。)
- ・ソーセバ オレモ オキヨー。(そうしたら俺も起きよう。)[竹内 1954]

〈推量形〉

「カクダロー」「ミルダロー」「クルダロー」「スルダロー」のような「断定非過去形+ダロー」と、「カクロ（一）」「ミルロ（一）」「クルロ（一）」「スルロ（一）」のような「断定非過去形+ロ（一）」の2種類の形がある。断定非過去形の語末音が「ル」である動詞に「ロ（一）」が後続する場合、「ミッロ（一）」「クッロ（一）」「スッロ（一）」のように「ル」が促音化する。「クンロ（一）」「スンロ（一）」のように撥音化することもある。

- ・タローガ テガミオ {カクロ（一）／カクダロー}。(太郎が手紙を書くだろう。)
- ・タローモ テレビオ {ミッロ（一）／ミルロ（一）／ミルダロー}。(太郎もテレビを見るだろう。)
- ・アシタワ キット {ハレッロ（一）／ハレルロ（一）／ハレルダロー}。(明日はきっと晴れるだろう。)
- ・ソロット {クッロ（一）／クンロ（一）／クルロ（一）／クルダロー}。(そろそろ来るだろう。)
- ・マタ ワルサ {スッロ（一）／スンロ（一）／スルロ（一）／スルダロー}。(また悪いことをするだろう。)
- ・ホーソエトコエ エグト オチッロ(細いところに行くときと落ちるよ。)[竹内 1954]
- ・マツリダスケ ミンナ エーキモン キッロ二。(祭りだからみんないい着物を着るだろう。)[竹内 1954]

〈連体非過去形〉

断定非過去形と同形で、多段型動詞は「カク」など基幹ウ段型となる。一段型動詞、「来る」「する」は基幹に「ル」を付けた「ミル」「クル」「スル」となる。語末音が「ル」である動詞は「t, d, k, g, r 音」が後続する場合、「ル」が促音になることがある。

- ・ジオ カクトキ エンピツオ ツカウ。(字

を書く時鉛筆を使う。)

- ・テレビオ {ミッ/ミル} トキワ モット
ハナレレ。(テレビを見るときはもっと離れなさい。)
- ・クルマカラ {オリッ/オリル} トキ、テ
ブクロオ ワスレタ。(車から降りるとき、
手袋を忘れた。)[高年層]
- ・ハナコガ {クッ/クル} トキワ イツ ナ
ンロ。(花子が来るときはいつなんだろう。)
- ・イマカラ シゴトオ スル ヒトモ イル。
(今から仕事をする人もいる。)

〈連体過去形〉

断定過去形と同形で、多段型動詞は基幹音便形に、一般型動詞は基幹に、「来る」「する」はイ段形「キ」「シ」に、「タ」を後接する。

- ・コノホンオ カイタ ヒトニ アツタ。(こ
この本を書いた人に会った。)
- ・テレビオ ミタ ヒトカラ レンラクガ ア
ツタ。(テレビを見た人から連絡があった。)
- ・マドオ アケタ ヒトガ シメテクダサイ。
(窓を開けた人が閉めてください。)
- ・キノー シゴト シタ ヒトモ イル。(昨
日仕事した人もいる。)

〈中止形〉

多段型動詞は基幹音便形に、一段型動詞は、基幹に、「来る」「する」はイ段形「キ」「シ」に、「テ」を後接する。

- ・ハナコガ プンオ カイテ タローガ エオ
カイタ。(花子が文を書いて、太郎が絵を描いた。)
- ・アサワ ニュースオ ミテ ヒルワ ドラマ
オ ミル。(朝はニュースを見て、昼はドラマを見る。)
- ・アサワ ロクジニ オキテ ヨルワ ジュー
ジニ ネル。(朝は6時に起きて、夜は10時に寝る。)
- ・マズ ハナコガ キテ ソレカラ タローガ
キタ。(まず花子が来て、それから太郎が来た。)

〈仮定形〉

多段型動詞はエ段形に「バ」、一段型動詞は基幹に、「来る」はオ段形「コ」に「レバ」を後接する。

「コレバ」の「レ」の子音が落ち、「コエバ」となる形も使用する。「する」ではエ段長音形「セー」に「バ」を後接する「セーバ」と、イ段形、ウ段形に「レバ」を後接する「シレバ」「スレバ」となる。

- ・イマカラ テガミオ カケバ マニアウ。
(今から手紙を書けば、間に合う。)
- ・コノ イヌガ シネバ ハナコガ カナシム
ロー。(この犬が死んだら、花子が悲しむだろう。)
- ・コノ テレビオ ミレバ カンガエガ
カワルロモシンネー。(このテレビを見れば、
考えが変わるかもしれない。)
- ・ハナコガ イレバ モット ニギヤカニ ナ
ルロー。(花子がいれば、もっと賑やかになるだろう。)
- ・マドオ アケレバ イーカゼガ ハイッテク
ッロー。(窓を開ければ、いい風が入ってくるだろう。)
- ・ハヨ シゴト {セーバ/シレバ/スレバ}、
ヤスメル。(早く仕事をすれば、休める。)

〈否定形〉

多段型動詞はア段形に、一段型動詞は基幹に、「来る」はオ段形「コ」に、「する」はイ段形「シ」に「ナイ」もしくはその音変化形「ネー」「ネ」が後接するが、「ナイ」は共通語的な形と認識されている。

- ・ソーユー イーカタワ {イワネ/イワナイ} ネ。(そういう言い方は言わないね。)[高年層]
- ・テガミオ {カカネ(一)/カカナイ}。(手紙を書かない。)
- ・キョーワ タローガ {イネ(一)/イナイ}。(今日は太郎がいない。)
- ・アンマリ テレビワ {ミネ(一)/ミナイ} ネ。(あまりテレビは見ないね。)
- ・サーメ {ツケ/スケ} マドワ {アケネ(一)/アケナイ}。(寒いから、窓は開けない。)
- ・キョーワ ハナコワ {コネ(一)/コナイ}。(今日は花子は来ない。)
- ・キョーワ シゴト {シネ(一)/シナイ}。(今日は仕事しない。)

- ・オラ ソングコト デキネーレ。(私にはそんなことできませんよ。)[加藤 1961]

否定形の活用を「見る」で代表させて以下に示す。

断定非過去 ミネ (一)

断定過去・連体過去形 ミネカッタ

意志形 ミネー

推量形 ミネロー、ミナイダロー

連体非過去形 ミネ

中止形 ミネ (一) デ、ミナクテ

仮定形 ミネバ

なる形 ミネナル、ミナクナル

- ・キノー テレビワ ミネカッタ。(昨日、テレビは見なかった。)
- ・ゼツタイ アノ バングミワ ミネー。(絶対あの番組は見ない。)
- ・アンマリ テレビワ {ミネロー／ミナイダロー}。(あまりテレビは見ないだろう。)
- ・テレビオ ミネトキワ シンプン ヨンデル。(テレビを見ないときは新聞を読んでいる。)
- ・テレビバッカ ミネ (一) デ ベンキョーセーヨ。(テレビばかり見ていないで勉強しなさい。)
- ・テレビバッカ ミネバ モット ジカンガアツタノニ。(テレビばかり見なかったらもっと時間があつたのに。)
- ・ダンダン テレビオ {ミネナル／ミナクナル}。(だんだんテレビを見なくなる。)
- ・イソガシクテ スッカリ テレビオ ミネナツタ。(忙しくてすっかりテレビを見なくなった。)

〈丁寧形〉

多段型動詞はイ段形に、一段型動詞は基幹に、「来る」は「キ」に、「する」は「シ」に「マス」が後接する。使用頻度が低く、通常断定非過去を使う。否定形は「ナイ」ではなく「ン」が接続する。

- ・ハナコニ テガミオ カキマス。(花子に手紙を書きます。)
- ・エーガワ ミマセン。(映画は見ません。)

〈使役形〉

多段型ではア段形に「セル」が後接する。一段型動詞は基幹に「サセル」が後接する。「来る」ではオ段形「コ」に「サセル」が後接する。「する」

ではア段形「サ」に「セル」が後接する。一段型動詞に準じた活用をする。

- ・テガミオ カカセル。(手紙を書かせる。)
- ・ハナコニ ヒトリデ ニューズオ ミサセル。(花子に一人でニュースを見させる。)
- ・ハナコニ マドオ アケサセル。(花子に窓を開けさせる。)
- ・ハナコオ ココニ コサセル。(花子をここに来させる。)
- ・タローニ ヒトリデ シゴトオ サセル。(太郎に一人で仕事をさせる。)

〈受身形〉

多段型動詞ではア段形に「レル」が後接する。一段型動詞では基幹に「ラレル」が後接する。「来る」はオ段形「コ」に「ラレル」が後接する。「する」ではア段形「サ」に「レル」が後接する。一段型動詞に準じた活用をする。

- ・カベニ エオ カカレル。(壁に絵を描かれる。)
- ・サーメノニ マド アケラレタ。(寒いのに、窓を開けられた。)
- ・タローニ ヒドイコト サレル。(太郎にひどいことをされる。)

後ろに「テ」「タ」などが付くと「レ」が促音化することがある。

加藤正信(1961)では、同じ中越北部方言の現三条市尾崎にて受身・可能・尊敬の古い形として「ツル(ラツル)」の形式があると述べられており、「ヨマツル」「ミラツル」「コラツル」などが記述されているが、筆者の内省および、調査を行った話者からは断定非過去形には促音形は確認できず、「ツタ(ラツタ)」「ツテ(ラツテ)」のように過去形、中止形のみにもみられた。

- ・コロダトコロオ タローニ ミラツタ。(転んだところを太郎に見られた。)
- ・イソガシノニ、イエニ コラツタ。(忙しいのに、家に來られた。)

〈可能形〉

肯定形の場合、①多段型動詞はエ段形に「ル」、一段型動詞基幹、「来る」のオ段形「コ」に「レル」が後接する場合と、②多段型動詞はア段形に「レル」、一段型動詞の基幹、「来る」のオ段形に「ラレ

ル」の付いた形がある。「する」は代替形「デキル」が使われる。活用は一段型動詞に準ずる。なお能力可能と状況可能の区別はない。

- ・ムズカシー ジガ {カケル/カカレル}。
(難しい字が書ける。)
- ・アツカキノデ ソトニ {イレル/イラレル}。(暖かいので外にいられる。)
- ・ソノ エーガワ エキマエノ エーガカンデ {ミレル/ミラレル}。(その映画は駅前の映画館で見られる。)
- ・ハナコワ チーセケドモ アサ ヒトリデ {オキレル/オキラレル}。(花子は小さいけれども、朝一人で起きられる。)
- ・ハナコワ ミチオ シッテルカラ ヒトリデ {コレル/コラレル}。(花子は道を知っているから、一人で来られる。)
- ・メンキョガ アルノデ シゴトガ デキル。
(免許があるので仕事ができる。)

否定形の場合、多段型動詞エ段形に「ネ(一)」、ア段形に「レネ(一)」、一段型動詞基幹、「来る」のオ段形「コ」に「レネ(一)」「ラレネ(一)」を付す形式がある。また、「カカレネ(一)」「ミラレネ(一)」「コラレネ(一)」等の「ネ」の前の「レ」が撥音化する形式もある。

- ・コノ コワ チーセ {カラ/スケ} ムズカシー ジガ {カケネ(一)/カカンネ(一)}。(この子は小さいから、難しい字が書けない。)
- ・コドモノ コトオ オモウト シンバイデ サキニワ {シネネ/シナレネ/シナンネ}。
(子供のことを思うと、心配で先には死ねない。)
- ・ハナコワ チーセ {カラ/スケ} エーガオ ヒトリデワ {ミレネ/ミラレネ/ミランネ}。
(花子は小さいから映画を一人では見られない。)
- ・アサ オキレネデ チコクシタ。(朝起きられなくて、遅刻した。)
- ・エキカラ トーイ {カラ/スケ} ヒトリデ {コレネ/コラレネ/コランネ}。(駅から遠いから、一人で来られない。)

〈尊敬形〉

多段型動詞と「する」のア段形に「レル」が、一段型動詞基幹と「来る」のオ段形に「ラレル」が後接する。これらは共通語的であり、一般的には断定非過去形を使用する。

- ・センセーガ テガミオ カカレル。(先生が手紙を書かれる。)

〈継続形〉

多段型動詞の基幹音便形、一段型動詞の基幹、「来る」は「キ」、「する」は「シ」に「テイル」「テル」が後接する。一段型動詞に準じた活用をする。

- ・タローワ テガミオ {カイテル/カイテイル}。(太郎は手紙を書いている。)
- ・ハナコワ デンシャデ コッチニ {キテル/キテイル}。(花子は電車でこちらに来ている。)
- ・タローワ キノーカラ コノ シゴトオ {シテル/シテイル}。(太郎は昨日からこの仕事をしている。)

継続形の過去形は共通語形として「テタ」「テイタ」を付す形式が一般的に使われる。

また、方言としては過去の継続を表す「タッタ」「ツタッタ」「テタッタ」「ツテタッタ」を使用する形式がある。過去には「タッタ」「テタッタ」で意味の違いが存在していたようだが、今回調査したところはっきりはわからなかった。

調査した中ではっきり違いがあると答えたものは「死ぬ」のみだった。「死ぬ」の場合、「タッタ」を付し「シンダッタ」となる形と、「テタッタ」を付し「シンデタッタ」となる形がある。どちらも「死んでいた」の意だが、「シンデタッタ」の方が「シンダッタ」よりもより過去の事象を表す。「シンダッタ」の場合は会話を少し前の事象を表す。そのほかの動詞では、「タッタ」は少し前の事象を表し遠い過去の事象は表さないが、「テタッタ」は少し前の事象も遠い過去の事象もどちらも表す。

多段型と一段型による使い分けは調査からは確認できなかった。以下に表で示す。

	書く	死ぬ	見る	来る	する
語幹	カイ	シン	ミ	キ	シ
タツタ	○	○	○	○	○
ツタツタ	○	×	○	○	○
テタツタ	○	○	○	○	○
ツテタツタ	×	×	○	○	○

- ・サッキ ダツカガ カミニ ジオ {カイトツタ/カイツタツタ/カイトタツタ}。(さつき誰かが紙に字を書いていた。)
- ・ニジューネンマエ ダツカガ カミニ ジオ {×カイトツタ/カイトタツタ}。(20年前、誰かが字を書いていた。)
- ・サッキミタラ サクラガ {チツタツタ/チツテタツタ}。(さつき見たら桜が散っていた。)
- ・ゴネンマエワ ココデ サクラガ {×チツタツタ/チツテタツタ}。(5年前はここで桜が散っていた。)
- ・ケサワ ユキガ {フツタツタ/フツテタツタ}。(今朝は雪が降っていた。)
- ・キョネンノ イマゴロワ ユキガ {×フツタツタ/フツテタツタ}。(去年の今頃は雪が降っていた。)
- ・サッキ ミタラ イエガ {タツタツタ/タツテタツタ}。(さつき見たら家が建っていた。)
- ・キョネン アノバシヨニ イエガ {×タツタツタ/タツテタツタ}。(去年あの場所に家が建っていた。)
- ・イマミタラ キンギョガ {シンダツタ/×シンデタツタ}。(今見たら金魚が死んでいた。)
- ・ジューネンマエ ココデ キンギョガ {×シンダツタ/シンデタツタ}。(10年前ここで金魚が死んでいた。)
- ・サッキマデ オトーサン クタビレタツケベンチデ {ヤスンダツタ/ヤスンデタツタ}ンヨ。(お父さん、疲れたからベンチで休んでいたのよ。)[壮年層]

- ・ニネンマエワ ココノベンチデ オトーサン {×ヤスンダツタ/ヤスンデタツタ}ンヨ。(二年前はこのベンチでお父さん休んでいたのよ。)
- ・キノーフ テレビオ {ミタツタ/ミツタツタ/ミテタツタ/ミツテタツタ}。(昨日はテレビを見ていた。)
- ・オトトシ ジツカデ テレビオ {×ミタツタ/×ミツタツタ/ミテタツタ/ミツテタツタ}。(一昨年実家でテレビを見ていた。)
- ・キノーフ アサマデ {オキタツタ/オキツタツタ/オキテタツタ}。(昨日は朝まで起きていた。)
- ・サンネンマエワ アサマデ {×オキタツタ/×オキツタツタ/オキテタツタ}。(3年前は朝まで起きていた。)
- ・キノーフ ソージヲ {シタツタ/シツタツタ/シテタツタ/シツテタツタ}。(昨日は掃除をしていた。)
- ・キョネンワ コノハヤノ ソージオ {×シタツタ/×シツタツタ/シテタツタ/シツテタツタ}。(去年はこの部屋の掃除をしていた。)

〈希望形〉

多段型動詞はイ段形、一段型動詞は基幹、「来る」「する」のイ段形「キ」「シ」に「タイ」「テ(一)」を後接させる。否定形に準じた活用をする。

- ・フデジャナクテ、エンピツデ {カキテ(一)/カキタイ}。(筆じゃなくて、鉛筆で書きたい。)
- ・マタ ココニ {キテ(一)/キタイ}。(またここに来たい。)
- ・ミンナデ コノ シゴトオ {シテ(一)/シタイ}。(みんなでこの仕事をしたい。)

〈のだ形〉

連体形非過去に「ンダ」を後接させる。

- ・チャンネル カエテクレネカ。ヤキューミルンダ。(チャンネルを変えてくれないか。野球中継を見るのだ。)

2. 形容詞・形容名詞述語・名詞述語の活用の特徴

【形容詞】

形容詞の活用の型は一つである。使用頻度の低い丁寧形を除き、語幹末が a, u, o の場合に交替語幹が用いられることがある。a の場合、アカ>アケ(赤い)、アカ>アコ(赤い)のように語幹末母音を a から e, o に変える。また語幹末から 2 拍目に長音を挿入し「アーク」「アーク」のように使用する。語幹末が i の場合は交替語幹は用いられないが、語幹末から 2 拍目に長音が挿入されることがある。加藤正信(1961)によると、東京などでは感情をこめて強調する場合、「タカーイ」(高い)となるが、中越北部方言では感情をこめなくても「ターケ」のように前の音節がのびるのが普通になっているとの指摘がある。今回の調査結果でも、同様の結果が得られた。

また、筆者自身も含め「アーク」のように語幹末から 2 拍目に長音が挿入される言い方は身内や年配

の方との会話で使用される。上記以外の関係性の場合、共通語を使用する。

末尾が融合した「アケー」「タケー」「ワリー」「シレー」といった形式は連体非過去形を除き今回の調査では見つからなかった。話者によると共通語的な乱暴な印象があると回答されている。

4 拍形容詞「うるさい」の場合、語幹末母音の a が e に交替し語幹末から 2 拍目に長音が挿入される「ウルセー」となる形と促音化し「ウルッセ」となる形がある。今回の調査では他に促音化する形は見つからなかった。以下に過去形で例示する。

ただし、「寒い」は語幹末母音が u であるが、この表とは異なる交替語幹を取る。「新潟県新潟市方言の活用表」に「赤い」とともに「寒い」の活用表も示した。また、語によっては表どおりの形がすべて確認できないものもある。調査においてすべてのありうる形を確認していない場合もある。

語幹末母音	語幹	語幹長音形	交替語幹 1		交替語幹 2	
	活用形例	活用形例	交替後	活用形例	交替後	活用形例
a	アカ-カッタ	なし	e	アーク-カッタ	o	アーク-カッタ
	ウルサ-カッタ			ウルセー-カッタ ウルッセ-カッタ		
i	ウレシ-カッタ	ウレーシ-カッタ	—	なし	—	なし
u	ワル-カッタ	なし	i	ワリー-カッタ	—	なし
o	シロ-カッタ	なし	e	シレー-カッタ	—	なし

〈断定非過去形〉

断定非過去形は「アカイ」「ウレシイ」のように語幹に「イ」を付す。末尾が融合して「アケー」のように長母音になる形式は確認できなかった。

3 拍形容詞の場合は「アーク」のような末尾の連母音が融合してさらに短母音になり、語幹末から 2 拍目に長音が挿入された形式も断定非過去形として使われる。4 拍形容詞の場合、「ウルセー」のような末尾の連母音が融合してさらに短母音になり、語幹末から 2 拍目に長音が挿入された形式と、融合は起きないが「イ」が脱落し語幹末から 2 拍目に長音が挿入された「ウレーシ」のような形式も使われる。これらの形式は語幹としても現れる。

- ・コノ トマトワ {アーク/アカイ}。(このトマトは赤い。)
- ・ソラガ {ウレー/クライ}。(空が暗い。)

語幹末母音	語幹	語幹長音形	交替語幹 1	
	活用形例	活用形例	交替後	活用形例
a	アカイ ウルサイ	なし	e	アーク ウルセ
i	ウレシイ	ウレーシ	—	なし
u	ワルイ	なし	i	ワリー
o	シロイ	なし	e	シレー

- ・コノ イロワ {ワリー/ワルイ}。(この色は悪い。)
- ・カオガ {シレー/シロイ}。(顔が白い。)

〈断定過去形〉

断定過去形は「アカカッタ」「ウレシカッタ」のように語幹に「カッタ」を付す。末尾が融合して「アケーカッタ」、「アコーカッタ」となる

形式は確認できなかった。「アーケカッタ」「ウルーセカッタ」「ウレーシカッタ」など交替語幹 1 (語幹末母音が i の場合は語幹長音形) に「カッタ」を後接する形式も使われる。語幹末母音が a の場合は「アーコカッタ」のように交替語幹 2 に「カッタ」を後接する形もある。

- ・キノー カッタ トマトワ {アーケカッタ / アーコカッタ / アカカッタ}。(昨日買ったトマトは赤かった。)
- ・ミチガ {クーレカッタ / クーロカッタ / クラカッタ}。(道が暗かった。)
- ・ホメラレテ {ウレーシカッタ / ウレシカッタ}。(褒められて嬉しかった。)
- ・イロガ {ワーリカッタ / ワルカッタ}。(色が悪かった。)
- ・カオガ {シーレカッタ / シロカッタ}。(顔が白かった。)

〈推量形〉

推量形は「アカイダロー」「ウレシーダロー」のように断定非過去形に「ダロー」を付す。末尾が融合して「アケーダロー」のようになる形式は確認できなかった。また、「アーケロ (一)」のように末尾の連母音が融合してさらに短母音になり、語幹末から 2 拍目に長音が挿入された形 (交替語幹 1) に「ロ (一)」を付す形式も使われる。

- ・コノ トマトワ ナカモ {アーケロ (一) / アカイダロー}。(このトマトは中も赤いだろう。)
- ・アノ ミチモ {クーレロ (一) / クライダロー}。(あの道も暗いだろう。)
- ・イロガ {ワーリロ (一) / ワルイダロー}。(色が悪いだろう。)
- ・カオガ {シーレロ (一) / シロイダロー}。(顔が白いだろう。)

〈連体非過去形〉

連体非過去形は断定非過去形と同じく語幹に「イ」を付す。「アーケ」のような末尾の連母音が融合してさらに短母音になり、語幹末から 2 拍目に長音が挿入された形式 (交替語幹 1) も使われる。「赤い」の場合、断定非過去形と異なり、「アケー」のような語幹末尾音と「イ」が融合した形も使われ

る。ただし使用頻度は低い。

- ・{アーケ / アカイ / アケー} トマトオ カウ。(赤いトマトを買う。)
- ・セノ {ターケ / タカイ} キガ アル。(背の高い木がある。)
- ・{クーレ / クライ} ミチオ アルク。(暗い道を歩く。)
- ・{シーレ / シロイ} イチゴガ アル。(白い苺がある。)

〈連体過去形〉

連体過去形は断定過去形と同形で語幹に「カッタ」を付す。末尾が融合して「アケーカッタ」「アコーカッタ」となる形式は確認できなかった。「アーケカッタ」など交替語幹 1 (語幹末母音が i の場合は語幹長音形) に「カッタ」を後接する形式も使われる。語幹末母音が a の場合は「アーコカッタ」のように交替語幹 2 に「カッタ」を後接する形もある。

- ・キノー {アーケカッタ / アーコカッタ / アカカッタ} トマトノ イロガ ワーリナツテ シマッタ。(昨日赤かったトマトの色が悪くなってしまった。)

〈中止形〉

中止形は「アカクテ」「ウレシクテ」のように語幹に「クテ」を付す。末尾が融合して「アケーテ」「アコーテ」となる形式は確認できなかった。「アークテ」のような交替語幹 1 (語幹末母音が i の場合は語幹長音形) に「テ」を後接する形式も使われる。語幹末母音が a の場合は「アークテ」のように交替語幹 2 に「テ」を後接する形もある。「アークテ」「アークテ」は年配の方に対しては使用するが、それ以外では「アカクテ」を使用する。

- ・アノ カミワ {アークテ / アークテ / アカクテ}、アノ カミワ シーレ。(あの紙は赤くて、あの紙は白い。)
- ・アノ ネダンジャ、{ターケテ / ターコテ / タカクテ} カエネ。(あの値段じゃ、高くても買えない。)
- ・ソトガ {クーレテ / クーロテ / クラクテ} ミエネ。(外が暗くて見えない。)
- ・シツガ {ワーリテ / ワルクテ} カエネ。(質が悪いので買えない。)

〈假定形〉

假定形は「アカケレバ」のように語幹に「ケレバ」を付す。「アーケバ」「アーコバ」のような交替語幹1、交替語幹2に「バ」を後接する形式も假定形として使われる。

- ・アノ モミジガ {アーケバ/アーコバ/アカケレバ} ミニ イコテ。(あの紅葉が赤かったら見に行こうよ。)
- ・ソトガ {クレーバ/クローバ/クラケレバ}、ハヨ カエロー。(外が暗かったら、早く帰ろう。)
- ・シツガ {ワーリバ/ワルケレバ} カワネドコ。(質が悪かったら買わないでおこう。)

〈否定形〉

否定形は「アカクナイ」「アカクネー」のように語幹に「ク」を付し、さらに「ナイ」「ネ(ー)」を後接した形式を使用する。「アーケネ(ー)」「アーコネ(ー)」のような交替語幹1、交替語幹2に「ネ(ー)」を後接する形式も使用する。

- ・マダ ミガ {アーケネ(ー)/アーコネ(ー)/アカクネ(ー)/アカクナイ}。(まだ実が赤くない。)
- ・マダ ソラワ {クレーネ(ー)/クラクネ(ー)/クラクナイ}。(まだ空は暗くない。)
- ・ソング {ターケネ(ー)/ターコネ(ー)/タカクナイ} ネ。(そんなに高くないね。)

〈なる形〉

なる形は「アカクナル」「ウレシクナル」のように語幹に「ク」を付し、さらに「ナル」を後接した形式を使用する。「アーケナル」「アーコナル」のような交替語幹1、交替語幹2に「ナル」を後接する形式も使用する。

- ・モミジガ {アーケナル/アーコナル/アカクナル}。(紅葉が赤くなる。)
- ・ソラガ {クレーナル/クラクナル}。(空が暗くなる。)
- ・イロガ {シーレナル/シロクナル}。(色が白くなる。)
- ・シツガ {ワーリナル/ワルクナル}。(質が悪くなる。)
- ・モー エツシャク {ナーガナル/ナーゴナル} ト エーダドモ。(もう一尺長くなる)

といいのだけれど。) [竹内 1954]

〈丁寧形〉

丁寧形は「アカイデス」「ウレシイデス」のように語幹に「イ」を付し、「デス」を後接させる。これらは共通語的であり、通常断定非過去形を使う。

- ・コノトマトワ アカイデス。(このトマトは赤いです。)

〈のだ形〉

ノダ形は「アカイノダ」「アカインダ」「ウレシイノダ」「ウレシインダ」のように語幹に「イ」を付し、「ノダ」「ンダ」を後接させる。「ノダ」の場合は共通語的であり、通常は「ンダ」を後接させた形を使用する。「アーケンダ」のような交替語幹1に「ンダ」を後接する形式も使用する。

- ・モミジガ {アーケンダ/アカインダ/アカイノダ}。(紅葉が赤いのだ。)
- ・ソラガ {クレーンダ/クラインダ/クライノダ}。(空が暗いのだ。)
- ・イロガ {シーレンダ/シロインダ/シロイノダ}。(色が白いのだ。)
- ・シツガ {ワーリンダ/ワルイノダ}。(質が悪いのだ。)

中越南部方言(魚沼市方言)にみられる「ガンダ」を後接させる形式は使用しない。「のだ」ではなく「誰々のものだ」のような「もの」の意味になる。

【形容名詞述語・名詞述語】

断定の助動詞「ダ」が「ラ」に交替する音変化がみられる。

〈断定非過去形〉

断定非過去形は形容名詞、名詞に「ダ」を後接する。

- ・コノハヤワ シズカダ。(この部屋は静かだ。)
- ・ハナコワ イツモ ゲンキダ。(花子はいつも元気だ。)
- ・ハナコワ ガクセーダ。(花子は学生だ。)

〈断定過去形〉

断定過去形は形容名詞、名詞に「ダッタ」が後接する形式と、「ダ」が「ラ」に交替し、「ラッタ」となる形式がある。

- ・アノハヤワ {シズカダッタ/シズカラッタ}。(あの部屋は静かだった。)

- ・タローワ キョーモ {ハヤオキダッタ／ハヤオキラッタ}。(太郎は今日も早起きだった。)

〈推量形〉

推量形は形容名詞、名詞に「ダロー」が接続する形式と、「ダ」が「ラ」に交替し、「ラロー」となる形式がある。

- ・ムコーワ モット {シズカダロー／シズカラロー}。(向こうはもっと静かだろう。)
- ・ハナコワ キョーモ {ゲンキダロー／ゲンキラロー}。(花子は今日も元気だろう。)
- ・アノコワ {ガクセーダロー／ガクセーラロー}。(あの子は学生だろう。)

〈連体非過去形〉

連体非過去形は形容名詞では「ナ」を後接する。名詞は助詞「ノ」を後接する。

- ・シズカナ ヘヤニ イル。(静かな部屋にいる。)
- ・カイシャノ トモダチ。(会社の友達。)

〈連体過去形〉

連体過去形は断定過去形と同形で、形容名詞、名詞に「ダッタ」が後接する形式と、「ダ」が「ラ」に交替し、「ラッタ」となる形式がある。

- ・サッキマデ {シズカダッタ／シズカラッタ}
ヘヤガ、ウルツセナッテ シマッタ。(さっきまで静かだった部屋が、うるさくなってしまう。)

〈中止形〉

中止形は形容名詞、名詞に「デ」が後接する。

- ・アノヘヤワ ニギヤカデ ツカレタ。(あの部屋は賑やかで疲れた。)
- ・タローワ ガクセーデ ハナコワ カイシャインダ。(太郎は学生で、花子は会社員だ。)

〈仮定形〉

仮定形は形容名詞、名詞に「ナラ」が後接する。

- ・ヘヤガ シズカナラ イーノニ。(部屋が静かならいいのに。)
- ・ズット ガクセーナラ イーノニ。(ずっと学生ならいいのに。)

〈否定形〉

否定形は形容名詞、名詞に「ジャナイ」もしくは「ジャネー」が後接する。

- ・コノヘヤワ アンマリ {シズカジャナイ／シズカジャネー}。(この部屋はあまり静かじゃない。)

- ・ハナコワ {ガクセージャナイ／ガクセージャネー}。(花子は学生じゃない。)

〈なる形〉

なる形は形容名詞、名詞に「ニ」を付し、さらに「ナル」を後接させる。「ニ」が撥音化し、「ン」になることがある。

- ・モースグ {シズカンナル／シズカニナル}。(もう直ぐ静かになる。)
- ・コトシ シャカイジンニナル。(今年社会人になる。)

〈丁寧形〉

丁寧形は形容名詞、名詞に「デス」を後接する。

- ・コノヘヤワ シズカデス。(この部屋は静かです。)
- ・タローワ ガクセーデス。(太郎は学生です。)

〈のだ形〉

のだ形は形容名詞、名詞に「ナ」を付し、さらに「ンダ」「ノダ」を接続する。「ノダ」の場合は共通語的であり、通常は「ンダ」を後接させた形を使用する。

- ・ムコーノ ヘヤワ {シズカナンダ／シズカナノダ}。(向こうの部屋は静かなんだ。)
- ・タローワ {ガクセーナンダ／ガクセーナノダ}。(太郎は学生なのだ。)

用例出典

竹内三一郎 (1954)「西蒲原方言の語法 (一)～(七)」『高志路』157-160号 (『日本列島方言叢書 11 北陸方言考① 北陸一般・新潟県』ゆまに書房に再録)

加藤正信 (1961)「新潟 (三 方言の実態と共通語化の問題点 11)」『方言学講座 2 東部方言』東京堂

参考文献 (用例出典と重なるものは略)

- 大橋勝男 (2002)『新潟県方言の記述的研究 第2巻 表現法編』高志書院
- 大橋勝男 (編著) (2003)『新潟県方言辞典』おうふう
- 大橋純一 (2005)「総説」『日本のことばシリーズ

15 新潟県のことば』明治書院

加藤正信（1958）「新潟県における東北方言的音韻
と越後方言的音韻の境界地帯」『国語学』第 34 輯

都竹通年雄（1949）「日本語の方言區別けと新潟縣
方言」『季刊国語』6号（『日本列島方言叢書 11
北陸方言考① 北陸一般・新潟県』ゆまに書房
に再録）

三樹陽介（2021）「新潟方言アクセントにみられる
中輪・外輪式両アクセントの特徴—新潟市東区若
年層の調査から—」『駒澤國文』58

吉田雅子（2019）「要地方言の活用体系記述 新潟
県魚沼市方言」『全国方言文法辞典資料集（5）活
用体系（4）』科学研究費補助金研究成果報告書

渡辺富美雄（1979）「15 新潟方言」平山輝男（編）
『全国方言基礎語彙の研究序説』明治書院

渡辺富美雄（2001）『新潟県方言辞典 下越編』野
島出版

（三樹 枝里）

方言文法研究会編『全国方言文法辞典資料集(9)
活用体系(7)』オンライン先行公開版

公開日：2024 年 11 月 3 日

冊子版発行日：2025 年 3 月（予定）